

特別養護老人ホーム 湯梨浜はごろも苑

1 基本方針

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って良質の介護福祉サービスを提案し、個別ケアを実践する。

良質の介護・福祉サービスを提供することにより 利用者がその有する能力に応じ、安心して安全な自律した日常生活を営むことができるよう支援する。

地域住民との交流を深め、地域に必要とされ、愛され信頼される施設づくりに努める。

2 利用者の状況（令和8年3月31日現在）

(1) 入退所の状況

定 員		前年度末 利用者数	令和7年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	難病 (死)	死亡			
120人		96人	31人	33人	0人	12人	21人	33,978人	77.58%	94人
6年度	120人	117人	37人	58人	6人	16人	36人	39,530人	90.25%	96人

(2) 利用者の要介護度別人員

性別	要介護認定区分						計
	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
男性	0人	0人	0人	6人	13人	9人	28人
女性	0人	1人	0人	12人	31人	22人	66人
計	0人	1人	0人	18人	44人	31人	94人

(平均介護度 4.11)

3 事業の実施状況

(1) 経営改善の確立

ア 目標稼働率 82.5%に対し、平均 77.6%（常時概ね 93 名入所）にとどまる。病院連携室や居宅介護支援事業所等への積極的な PR 活動及び緊密な連携、細やかな入所選考委員会の開催により待機者の確保、空床の期間短縮など、スムーズな入所へ努めたが、利用者の重度化（昨年より介護度 0.12 上昇）による入院、看取りなどによる死亡や退所、入所申し込み者の減少傾向も見られることから、目標に達していない。

イ 令和6年8月より開始した空所利用型の短期入所サービスも次第に定着し、昨年に比し3割程度利用が増加して、施設入所にもつながっている（延べ86人が利用）。

ウ 生産性向上委員会を立ち上げ、緊急度や重要度を勘案しながら改善を図り、一層の業務効率化と職員の負担感の解消を図った。（具体的には会議等の記録作成やアンケート集計に AI の活用、情報共有のあり方の見直しに伴う夕礼の廃止、事前の意見集約による会議時間の短縮・進行の効率化など）

(2) 個別ケアの充実

ア カンファレンスには、利用者及び家族に可能な限り参加してもらい、本人・家族の「～したい」という思いをケアプランに反映させ、多職種連携のもとで実現に努めた。また、介護スキル研修の充実により、ケアの質を高めるとともに、他ユニット間で相互に監査的

なチェックを行うことで、職場環境の向上やケアの充実につなげた。

イ 新型コロナ感染症も落ち着き、苑全体で夏祭りや餅つき、初釜などを実施し、利用者への楽しみの機会を増やすことができた。また、利用者からも意見を聞きながら、喜ばれるメニューや安全な食事の提供に心がけた。

(3) 重度化に対応するサービスの質の向上

ア 不適切なケアと思われる事案が2件発生したが、職場環境に起因する要因もあったため、改善に取り組んだ。また、利用者の尊厳保持を徹底し人権意識を高めるため、虐待防止・身体拘束排除・アンガーマネジメント研修を実施した。さらに、「虐待の芽」チェックシートによる定期的な自身のケアの振り返りと、虐待防止マニュアルを全面改訂した。

イ 日常生活の継続のために歩行訓練やADL（生活動作）訓練の実施、都度のポジショニングの見直しにより快適な姿勢の維持を図った。さらに、趣味の絵手紙やユニットでのリハビリ体操など、楽しい雰囲気での利用者の機能維持を図るとともに、医務と介護の緊密な連携により、日頃から利用者の体調の異変等に気を配り、早期の処置に努めた。

また、入院先の医師と定期的に面談し、施設への復帰又は早期の退所の見極めを図った。

ウ 看取り期になっても、本人やご家族の希望などの情報を得ながら、穏やかにその人らしい生活が可能な限り維持できるように努めた。また、利用者の様子を面会時等にこまめに伝え、定期的に家族へ写真を送付するなど、信頼関係の構築に努めた。

エ 口腔衛生・口腔機能の向上に向けて、ユニットごとに毎月の目標を掲げて取り組むとともに、研修会を実施し誤嚥性肺炎の予防や摂食嚥下の理解を深め、実践に活かした。

オ 利用者へのサービスの質の向上を期すため、第三者機関による評価を受審した。結果を職員に周知し、自身の振り返りを促すとともに、施設として取り組むべき方向性について共有した。

(4) 安全管理の徹底

ア 利用者の安全安心な生活の提供に努めたが、転倒や誤嚥、薬等に関する事故が13件発生し、市町村へ報告した。こうした事故の発生の都度、多職種が参加して検証を行い、事故原因の究明と再発防止策の検討に取り組んだ。

イ 感染予防のため標準予防策の徹底、ガウンテクニック研修、予防接種などを実施した。新型コロナについては利用者、職員ともに散発して感染がみられたが、その都度対応を図り、結果的に感染拡大までには至っていない。また、新型コロナの対応マニュアルを全面改定した。

(5) 地域における公益的な取組の推進

ア 地域住民や団体等の研修等に「はごろもホール」を開放しており、近年その利用が急増している（法人内28件、外部121件…外部利用は昨年度よりほぼ倍増）。また、行政の要請に応じて、地域の高齢者サロンや在宅支援の場へリハビリスタッフを派遣するなど、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。

イ 近隣地区と緊急時相互協力協定を結び、災害時等の避難場所・福祉避難所として「はごろもホール」を提供するとともに、介護実習、子どもの介護体験、高校生の介護体験授業、県新規採用職員の職場体験など、可能な限り受け入れを行った。

ウ さらに、近隣住民も集えるカフェ（オレンジカフェ）の定期的な開催の検討や苑内イベントのボランティア募集、町の文化芸能祭への利用者の作品展示などを通じて、地域とのつながりを一層深める取り組みを進めている。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員(人)	延人員(人)
鳥取県立総合看護専門学校	R7. 10. 6～R7. 10. 9	6 人	24 人
鳥取社会福祉専門学校	R7. 6. 23～R7. 7. 7	1 人	10 人
	R7. 8. 27～R7. 9. 30	2 人	42 人
鳥取県庁（新規採用職員体験研修）	R7. 11. 6～R7. 11. 7	2 人	4 人
	R7. 11. 20～R7. 11. 21	2 人	4 人
教育免許法の特例に基づく介護等の体験	R7. 10. 20～R7. 10. 24	1 人	4 人
計		14 人	88 人

(2) ボランティア活動等の受入

桔梗の会(生け花) 個人3名 3回(9月・12月・3月)

絵手紙クラブ 個人1名 10回開催(原則毎月開催、毎回利用者10名程度参加)

ミュージックケア(音楽療法) 個人2名 7回開催(4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月)
(毎回利用者20名程度参加)

5 附帯事業

事業区分	年間利用者数		
	年度	実人員	延人員
短期入所生活介護	7	4 人	86 人

(平均稼働率 0.21%)